

ふるさと自慢づくりコンテスト(お菓子部門)の作品

都留市では、産業及び地域の活性化を図るため、産業のまちづくり『メイク・アクションつる』を掲げその一事業として産業まつりに『ふるさと自慢づくり』と題して、主に地元で生産された農林産物などを利用したお菓子づくりコンテストを実施しました。多数出品されたお菓子は、どれも甲乙つけない見事なお菓子でした。今回は都留市大幡の石川勝善さんの作品で紫芋の甘さと色のきれいなおだんごです。和を取り入れて、上品で美味しくいただけ、しかも簡単に作れるお菓子を紹介します。皆さんもご家庭でお試してください。

1個分

エネルギー	213キロカロリー
タンパク質	3.8グラム
脂肪	0.5グラム
カルシウム	14.9ミリグラム

《材料 だんご28個分》

米の粉	1キログラム
紫芋の裏ごし	500グラム
あん	700グラム



紫芋のだんご

《作り方》

- ①米の粉を熱湯でこね、そのあとに紫芋の裏ごしをいれて混ぜ合わせます。
- ②まんじゅうの形にしてあんをいれ蒸し器で15分位蒸します。

ネイチャーセンター ガイド(68)

●「先日・・・」

夜8時ごろ田野倉のうら道を車で走行中、目の前を必死にかけていく小さな生き物を目にした。

ヘッドライトに照らされる生き物はジャンプがすごく得意そうな感じで、大人の手のひらサイズだった。道路を横切ったあとは4mもあるコンクリートの壁を風の如く、駆けのぼり林の中へと消えた。

ヘッドライト越しにみる小さな野生動物のたくましさはほれ込んだ私。このような光景を目にするのは2回目だ。感動——。そして小さな幸せ——。

●『若僧のふれあいの里入門』

私が実習に来てから早や9日目。何も分からず見よう見まねの手探りから始めた私は毎日が発見の嵐で楽しくてしょうがない。一番印象に残っているのは自然塾の子ども達と写真展作りをしたこと。「ここはどうしたらいい?」とひっきりなしに聞いてくるが「自分で考えてやれよ」とすかさず返答。やはりオリジナルの展示というものはおもしろく、何の変哲もない1枚の写真が突如池の鏡になったり、鬼太郎の家に見えたりする。

私は教員を目指す人にとって、ふれあいの里での農林業の作業や子ども達との遊びは大きな経験となると感じた。今思えば勉強・部活・バイトだけの大学生活は何と味気ないことか。ガイド希望の大学生を登録し大学から車で行けるようになれば、ふれあ



連絡・問合せ ☎(45)6222
宝の山ふれあいの里ネイチャーセンター
開館時間：午前9時から午後4時まで
休館日：月曜日、祝祭日の翌日

いの里はもっと活気付くだろう。

都留文科大学 社会学科4年 石田英次

●『カエル日記』

私の手から逃れようと必死にもがいていたあの巨大なカエルは、コオロギを一口で食べると満足したかのように土の中に隠れてしまった。9月5日に拾ってきたヒキガエルである。名前はまだない。大きさは手のひらサイズでお世辞にもかわいいとは言えない、むしろグロテスクだ。毎日バツヤコオロギなどの虫を5匹ぐらいあげている。カエルはエサを食べる瞬間は少しづつ獲物に近づき狙いを定める。体の動きは鈍い割りに、舌の動きだけは速く、狙った獲物はほぼ百発百中。こいつはカゴの中の虫を食べるだけで天敵もなにもいない。「このカエルは楽しってるなあ」とぼやきながら私は毎日覗きこむ。寒い日はエサを食べるとき以外1日中土の中に潜り、目だけ出しあたりをうかがう。1週間も世話をすれば愛着がわいてくるのが人情だ。たかがカエル、されどカエル。10月の遠足後には逃がすつもりだ。私のかわいいブサイクなカエル。

